

2024 大学入学共通テスト形式

(第2回全統共通テスト模試トライアル)

# 日本史探究復習試験

(第4回)

【範囲：近世史①】

24問 (100点満点)

＜共通テスト版読み取り形式／同難易度＞

模試対策・共通テスト対策用としてファイルください。

実施されたその晩に必ず解き直しをしてください。

スタディ・コラボ

# 日本史探究

(解答番号  ～  )

**第1問** 高校生のリツさんは、江戸の三大改革と田沼政治の財政再建策に興味を持ち、先生の助言を受けて、表・抜粋文にまとめて整理してみた。これらを読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。（配点 25）

表 I

改革	財政再建策
<input type="text" value="1"/> 享保の改革	・ <u>㉔上米令</u> （1722年）
<input type="text" value="2"/> 田沼政治	・ 株仲間結成の奨励・幕府直営の専売制
<input type="text" value="3"/> 寛政の改革	・ 小農経営の再建・緊縮財政
<input type="text" value="4"/> 天保の改革	・ 上知令（1843年）

表 II（1706年～1755年：幕府領の石高と平均年貢収量および平均年貢率）

年代	直轄領石高	平均年貢収量	平均年貢率
1706—1715	400万石	131万9574石	32.29%
1716—1725	412万石	139万5782石	33.88%
1726—1735	447万石	147万7350石	33.02%
1736—1745	459万石	158万404石	34.38%
1746—1755	442万石	166万6845石	37.64%

抜粋文

I ㉔米年貢の収入が増えても、それが財政収入の増加に直結しないという問題に直面したのが享保の改革であった。すなわち、「米価安の諸色

高」といわれる状況である。(中略)

商品の価格は、米価によって規定されるのではなく、労賃や肥料代など独自の要素で決まるようになった。この「米価安の諸色高」を解決しなければ、年貢収納の増加が財政収入の増加に直結しない。そこで株仲間の公認、㊟堂島米市場の公認などにより諸物価の安定と下落をはかったのである。あらたな経済情勢に対応した市場・流通策であるが、それは幕府の財政問題の解決策として発想された。ただしこの時の物価問題は、㊠元文金銀の鑄造によりようやく安定をみた。

Ⅱ 田沼時代には、人参座などをつくって幕府による専売制を行うとともに、運上金や冥加金の納入と引き換えに、商人や職人の株仲間を広く公認して営業上の特権を与える政策がとられた。これは、財政収入を増やす策であったとともに、株仲間を通じて流通を統制し、それによって物価を抑制しようとするにおもな狙いがあった。しかし、天明の飢饉のさいには、商人らによる米の買占めや隠匿の前に幕府はなすすべもなく、株仲間政策は、米を中心とする流通や物価の統制に効果を発揮できなかった。

Ⅲ 飢饉対策としては米の備蓄、いわゆる囤米がある。全国の大名には、領知高一万石につきア石を五年間、毎年備蓄することを命じ、幕領農村へは郷蔵を設けて貯蔵させ、大坂、京都、長崎その他の幕府直轄都市でもさまざまな方法で囤米が行われた。

なかでも有名なのが、江戸のイ分積金による町会所の囤米である。

Ⅳ 激しくかつ規模の大きな一揆や打ちこわしが連続的に多発したことが、この時期の特徴である。一八三六(天保七)年の㊢甲州郡内騒動(山梨県旧都留郡)、三河加茂一揆(愛知県旧加茂郡)、一八三七年の大塩の乱(大阪市)、生田万の乱(新潟県柏崎市)、能勢一揆(大阪府豊能郡)、その翌年の佐渡一國一揆など、大一揆や蜂起事件の続発は、幕藩領主を驚愕させるのに十分であった。

## 第4回 近世史①

(I～IV) 『近世の三大改革』 山川出版社／藤田覚

問1. ・に入る語句の組合せとして正しいものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。

- |   |   |    |   |   |
|---|---|----|---|---|
| ① | ア | 百  | イ | 三 |
| ② | ア | 百  | イ | 七 |
| ③ | ア | 五十 | イ | 三 |
| ④ | ア | 五十 | イ | 七 |

問2. 下線部②に関連して、以下の史料に関して述べた次の文a～dについて、最も適当なものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。

[史料]

御旗本おんはたもとニ召し置かれめ候 御家人・御代々そうろうごけにん段々相増候おんだいだいだんだんあいまし(注1)。御蔵入高おくらいりだか(注2)も先規よりハ多く候得共そうらえども、御切米おきりまい、御扶持方おんふちがた(注3)、其外表立ち候御用筋そのほかおもてだ(注4)の渡方わたしかたニ引合ひきあい(注5)候ては、畢竟年々不足の事ニ候。(中略)今年ニ至て御切米等も相渡し難く、御仕置筋おしおき(注6)の御用も御手支おてつかえの事ニ候(注7)。それニ付、御代々おんだい(注8)御沙汰ごさたこれなき(注9)事ニ候得共そうらえども、万石以上の面々おもて(注10)より八木差し上げ候ニ仰付おほせつけらるべしと思召し、左候ハねばおほしめ(注11)御家人の内数百人、扶御持おふちめしほなを召放めしほなたる(注12)べきより外はこれ無く候故ゆえ、御恥辱ちじよくを顧かえりみられず、仰せ出され候。高壺万石ニ付き八木百石の積りつみ差し上げらるべく候。(中略)これに依よって、在江戸半年充御免成みてごめんなされ候間、緩々ゆるゆる休息いたし候様ニ仰せ出され候。 (『御触書寛保集成』)

(注1) 段々相増候：代々数が増えている (注2) 御蔵入：直轄領からの年貢収入

(注3) 御切米、御扶持方：知行地を与えられていない蔵米取の下級旗本や御家人

(注4) 御用筋：幕府の行政

(注5) 引合：比べる

(注 6) 御仕置筋：司法関係の公用

(注 7) 御手支：差し支える

(注 8) 御代々：歴代将軍

(注 9) 御沙汰これなき：先例がない

(注 10) 万石以上の面々：大名

(注 11) 左候ハねば：そうでなければ

(注 12) 召放たる：解雇する

- a **史料**によれば、大名に対して領知高 1 万石につき 100 石の米を幕府に納入せよと言っている。
- b **史料**によれば、大名に対して米を上納するように命じる沙汰はこれまで歴代将軍も出したと言っている。
- c **史料**によれば、米を幕府に上納する代わりに大名には、参勤交代を免除すると言っている。
- d **史料**によれば、このままでは御家人をリストラしなくてはならないからと幕府の財政難を正直に言っている。

① a・c

② a・d

③ b・c

④ b・d

問 3. 下線部⑥に関連して、表に関して述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

3

X 享保の改革が始まっての 10 年間（一七一六～一七二五）は、幕府領の石高は 400 万石を超えていた。

Y 享保の改革が始まっての 10 年間（一七一六～一七二五）に、上米令が発令された。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

問 4. 下線部⑨に関連して、以下は、堂島米市場の賑わいを示した絵である。この絵に関して述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

4

第4回 近世史①



X 堂島の米市場は、火事を避けるために禁煙であったが、無視して喫煙する者が多かったので、警告の意味で水を撒いた。

Y 堂島の米市場では米切手（米手形）を売り買いしたので、米俵が全く描かれていない。

- ① X 正 Y 正                      ② X 正 Y 誤  
 ③ X 誤 Y 正                      ④ X 誤 Y 誤

問5. 下線部㉑に関連して、元文金銀を示したものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 5

	①	②	③	④
金含有量	57.37%	84.29%	85.69%	65.7%
銀含有量	64%	40%	80%	46%

問6. 下線部㉒に関連して、以下の史料は、戊戌封事と呼ばれるものである。この意見書を書いた人物と、意見書を受け取った将軍との最も適当

なものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。

6

[史料]

当時(注1) 太平の御世にハ 候へ共、人の身にたとへ候得ば 甚不養生にて、種々さまざまの病症きざし 居候間、(中略) 右の病症委細ハ(注2) 筆紙に尽し兼候得共、大筋ハ内憂(注3) と外患(注4) との二つに御座候。内憂ハ海内(注5) の憂にて、外患ハ海外の患に御座候。歴史の上にてても御承知もあらせられ候通り、内憂起り候て外患を来し候事もこれ有り、外患来り候て内憂を引出し候事もこれ有り、内憂外患一時に起り立候事も御座候間、恐れながら御油断遊ばされず、幾久しく太平御持張遊ばされ候様 仕度(中略) 近年参州・甲州の百姓一揆(注6) 徒党を結び、又は大坂の奸賊(注7) 容易ならざる 企仕、猶当年も佐渡の一揆(注8) 御座候ハ、畢竟下々にて上を怨み候と、上と恐れざるより起り申候。

〔『水戸藩史料』〕

(注1) 当時：現在

(注2) 病症委細ハ：病気の症状の詳しい点については

(注3) 内憂：国内での心配な点 (注4) 外患：対外危機

(注5) 海内：国内

(注6) 参州・甲州の百姓一揆：1836年に三河国で起こった加茂一揆と甲斐国で起きた郡内一揆

(注7) 大坂の奸賊：大塩平八郎

(注8) 佐渡の一揆：1838年に起った佐渡一国騒動のこと

a 徳川光圀      b 徳川斉昭      c 徳川家斉      d 徳川家慶

① a・c      ② a・d      ③ b・c      ④ b・d

**第2問** 高校生のリツさんは、幕末の動向に興味を持ち、先生の助言を受けて、年譜や抜粋文・写真にまとめて整理してみた。これらを読んで、

## 第4回 近世史①

後の問い（問7～12）に答えよ。（配点 25）

### 年譜

年次	できごと
1853	ペリーが浦賀に来航
1854・3	日米和親条約締結
1858・6	<u>㉔日米修好通商条約締結</u>
・9	安政の大獄開始
<input type="text" value="A"/>	
1860	桜田門外の変
1862・7	文久の改革
<input type="text" value="B"/>	
1863・5	下関事件
・7	薩英戦争
・8	<u>㉕八月十八日の政変</u>
<input type="text" value="C"/>	
1864・7	禁門の変
<input type="text" value="D"/>	
1866・1	薩長連合
・12	孝明天皇崩御
1867・10	大政奉還
・12	小御所会議

### 抜粋文

I さらに、慶喜の「暴言」で注目しなければならないのは、彼が中川宮に向って、「暴論序ついでに今一つ暴論申し上ぐべし」と断ったうえで、「此三人（＝春嶽・宗城・久光）は天下の大愚物、天下の大奸物に御座候」



と痛罵<sup>つうば</sup>したことである。

II そこで、慶喜は、有力藩の力を借りて、兵庫開港を勅許にもっていかしたのである。すなわち、兵庫開港を支持する声が多い（したがって「公論」である）というかたちで、天皇および関白以下の朝廷上層部に圧力をかけ、兵庫開港を承認させようと図った。

III 容堂はむろん慶喜の將軍継嗣を実現させるにあたって橋本左内や大脇の京都での活動のみに頼ったわけではない。容堂自身も積極的に動いた。

IV ついで後藤は、小松帯刀や西郷と初めて会い、長州処分問題や兵庫開港問題、あるいは三条実美らの帰洛問題などは「枝葉」の問題であること、これからは「大条理」に立って、將軍に政権の返上と將軍職の辞退を要請し、それが受け入れられたあと、京の地に日本全土にわたる問題を討議決定する議決機関を設立するとの雄大な公儀政体思想（プラン）を提示し、西郷らの同意が得られたことで、在京薩土両藩首脳間に盟約が成立する。

V 会議の場で、慶喜の辞官納地を強硬に要求したのが岩倉具視や中山忠能などの公家であった。これに対し、猛烈に反対したのが、山内容堂や山内容堂や松平春嶽らであった。（中略）会議の冒頭、クーデターを陰険の所為だと指弾した容堂は、◎次のような論点に立って、猛虎一声とも言える大声を發して、岩倉らに対し異議を整えた。

（I～V ➡『酔鯨山内容堂の軌跡』講談社現代新書／家近良樹）

第4回 近世史①

写真



問7. 写真にある出来事があった時期として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① A                      ② B                      ③ C                      ④ D

問8. 抜粋文Ⅰ～Ⅲについて、年代順に正しく配列したものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ① Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ                      ② Ⅰ→Ⅲ→Ⅱ  
③ Ⅱ→Ⅰ→Ⅲ                      ④ Ⅱ→Ⅲ→Ⅰ  
⑤ Ⅲ→Ⅰ→Ⅱ                      ⑥ Ⅲ→Ⅱ→Ⅰ

問9. 下線部④に関して、日米修好通商条約の条文ではないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 合衆国の漂民<sup>そのほか</sup>其他の者とも、当分、下田箱館<sup>とうりゅう</sup>逗留中、長崎<sup>おい</sup>に於  
、唐、和蘭人同様閉籠<sup>から</sup>メ窮屈<sup>オランダ</sup>の取扱これ無く、下田港内の小島<sup>まわり</sup>周り  
凡<sup>およそ</sup>七里の内は、勝手に徘徊<sup>はいかい</sup>いたし、箱館港の儀<sup>おの</sup>ハ、追<sup>とり</sup>て取極<sup>き</sup>め候事

- ② 総て国地に輸入輸出の品々、別冊の通、日本役所へ、運上を納むべし。
- ③ 外国の諸貨幣は、日本貨幣同種類の同量を以て、通用すべし。
- ④ 日本にある亜墨利加人、自らの其国の宗法を念じ、礼拝堂を居留場の内に置くも障りなく、並に其建物を破壊し、亜墨利加人宗法を自ら念ずるを妨る事なし。

問 10. 下線部⑥に関連して、八月十八日の政変を説明した文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 10

- ① 孝明天皇の意を受けた会津藩と薩摩藩が結託して長州藩の御所警備の任を解いた。
- ② 孝明天皇の意を受けた会津藩と薩摩藩が結託して土佐藩の御所警備の任を解いた。
- ③ 孝明天皇の意を受けた福井藩と薩摩藩が結託して長州藩の御所警備の任を解いた。
- ④ 孝明天皇の意を受けた福井藩と薩摩藩が結託して土佐藩の御所警備の任を解いた。

問 11. 下線部⑦に関連して、後続する文章では2点挙げられている。それに関して述べた次の要約文 a～d について、最も適当なものの組合せを、次の①～④のうちから一つ選べ。 11

- a 小御所会議に王政復古の功労者である徳川慶喜を招聘しないのはおかしい
- b 小御所会議に討幕への道筋をつけた長州藩主を招聘しないのはおかしい
- c 徳川慶喜のみに辞官納地を一方的に要求するのは、挙国一致を掲げた王政復古の精神に反する

## 第4回 近世史①

d 徳川慶喜を死罪にすると決めることは、御一新に際して御稜威を傷つけることになる

- ① a・c      ② a・d      ③ b・c      ④ b・d

問12. 抜粋文Ⅳに後続する文章として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

- ① 西郷らが後藤（土佐側）の提案に「渡りに船」と飛びついたのは、自分たちの考える対幕強硬路線がまだ薩摩藩内のみならず、有力藩内にも多くの同志を獲得するには至っていない状況下、後藤らから建白書を提出したうえで将軍が拒否すれば、それを口実にただちに挙兵の手段にでるとするシナリオを提示されたからであった。
- ② 西郷らが後藤（土佐側）の提案に「渡りに船」と飛びついたのは、自分たちの考える大政奉還路線に土佐藩が同調してくれたからであった。
- ③ 西郷らが後藤（土佐側）の提案に「渡りに船」と飛びついたのは、薩長連合の際、仲介にあたった坂本龍馬らに薩摩藩と長州藩がそろって大政奉還論を支持すると約束していたからであった。
- ④ 西郷らが後藤（土佐側）の提案に「渡りに船」と飛びついたのは、島津久光から徳川慶喜が大政奉還に応じる可能性が高いとの情報を得ていたからであった。

**第3問** 高校生のリツさんは、江戸時代の画家に興味を持ち、先生の助言を受けて、抜粋文や絵画にまとめて整理してみた。これらを読んで、後の問い（問13～18）に答えよ。（配点 25）

抜粋文

I あまり詳しい記録が残されていません。京都の町衆たちを相手に、扇絵や掛け軸、色絵、屏風などを売っていたようです。(中略) 人々びとが好むもの、喜びそうなものをよく理解していたからこそ、『㊤風神雷神図屏風』を描けたのだと思います。

II 最終的には宮廷のえどころあずかり絵所預の地位を奪還しました(中略) 当時は、

**ア**とともに、「画壇の二大家」とも呼ばれていました。

III 30歳前に結婚しましたが、トラブルが絶えず、32歳で女性から子供の認知をめぐる訴えられ、家屋敷や金銭などを差し出して示談に持ち込んでいます。

IV 江戸時代に池大雅と並び、文人画を大成した一人です。(中略) ㊤文人画の絵は、書を読み書きし、俳句をたしなみ、素養や教養のある人が理解できる世界。あらゆる分野に精通し、教養で奥行きを味わうものなので、現代の私たちには理解しにくい世界です。

V 写実に目覚めたのは、日銭を稼ぐために、眼鏡絵(細密画による3D玩具)を描くうちに透視図法を学んだことによるといいます。(中略)

**イ**と仲良しで、京都で500メートルくらいしか離れていないところに住んでいました。

VI 浮世絵のパイオニアと呼ばれています。(中略) 祖父を頼って京都へ行き、そのときに**ウ**や狩野山雪を訪ね、(中略) その後に江戸に赴き、工房をもちながら、幅広い制作に携わりました。

VII 将軍足利家、織田信長、豊臣秀吉と、時代のトップに立つ権力者につぎつぎと仕えました。パトロンが求めるものを的確にとらえ、一門を率いて㊤城や殿舎、寺などを飾る大規模な障壁画を多く手がけています。

VIII 19世紀前半、浮世絵の「美人画」と「役者絵」の2本柱に加えて、3本目の柱として「風景画」が加わります。(中略) 食事は酒屋から運ばせて、片付けもしない。手のほどこしやうがなくなり、93回の引っ越しをしたといっています。

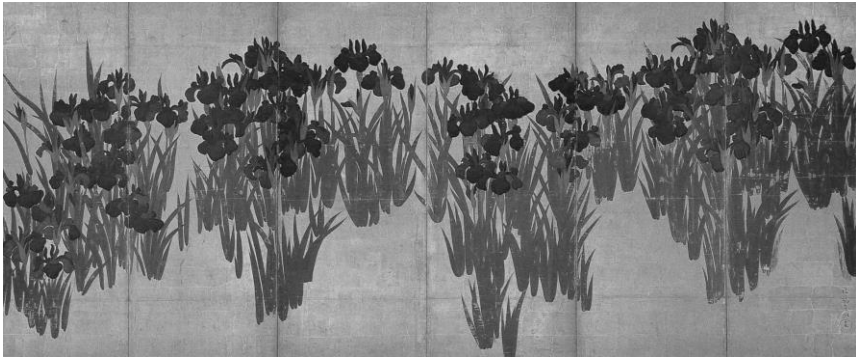
## 第4回 近世史①

IX 故郷の能登から京都へのぼり、当時隆盛を極めていた狩野派を脅かすほどの実力をもっていました。(中略) 京都に移住。①千利休など知り合い、人脈を広げる。

X もちまへのチャレンジ精神から、異様に縦長の構図に挑戦しました。(中略) 16歳で家康と対面、20代で狩野家を率いて。大きな障壁画を手がけます。

(I～X) 『知識ゼロからの日本絵画』 幻冬舎／安河内真美)

### 絵画



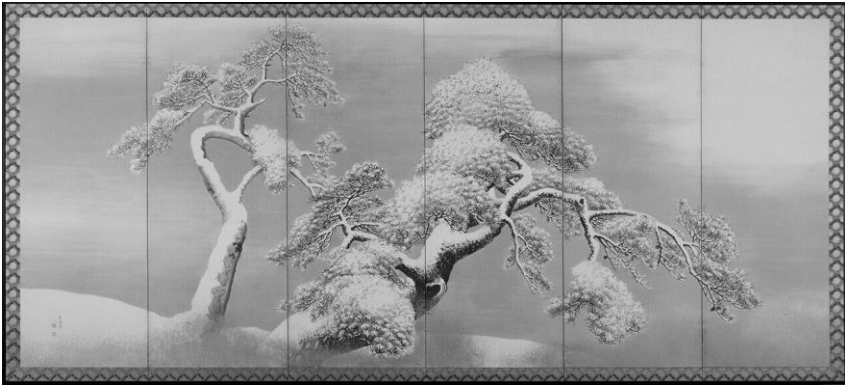
i



ii



iii



iv

問 13. 空欄 **ア** ~ **ウ** に入る抜粋文で説明されている画家の組合せとして正しいものを、次の①~④のうちから一つ選べ。 **13**

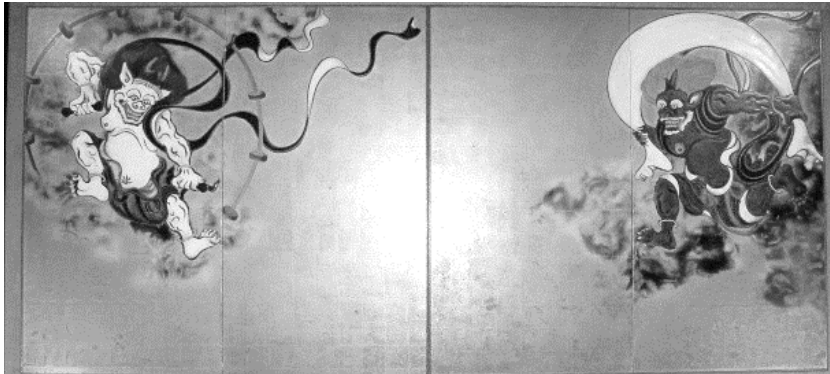
- |   |       |       |      |
|---|-------|-------|------|
| ① | ア VII | イ III | ウ I  |
| ② | ア VII | イ IV  | ウ II |
| ③ | ア X   | イ III | ウ I  |
| ④ | ア X   | イ IV  | ウ II |

問 14. 抜粋文で説明されている画家と、絵画との組合せとして誤っているものを、次の①~④のうちから一つ選べ。 **14**

第4回 近世史①

- ① III—i      ② V—iv      ③ VII—iii      ④ VIII—ii

問 15. 下線部㉑に関連して、以下が『風神雷神図屏風』である。出典で著者が述べている『風神雷神図屏風』の批評として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 15



- ① 普通の絵の具ではここまでのインパクトは出ません。画材に相当な金額を費やしたと思われます。
- ② 真ん中をドカーンと空けることで、画面が左右にひっぱられ、膨張するかのようです。
- ③ 金箔使いの多さ、厚さもさることながら、パッと飛び込んでくる鮮やかな緑色の美しさに、目が覚めます。この絵具は緑青といい、天然の孔雀石をくだいたもので、当時から大変貴重で高価なものでした。
- ④ 吹く風がピタッと止まった、ある一瞬。見渡す限りの薄野風景、全体に広がる黒雲のグラデーションが、緊張感を漂わせています。

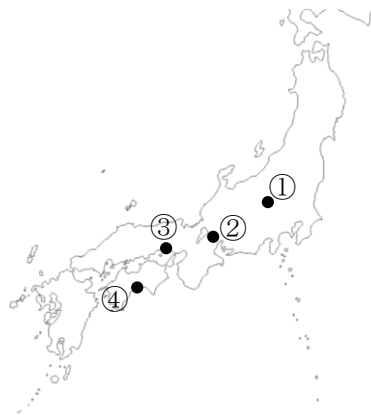
問 16. 下線部㉒に関連して、以下の文人画を描いた画家を、後の①～④のうちから一つ選べ。 16





- ① 亜欧堂田善 ② 渡辺崋山  
③ 谷文晁 ④ 鈴木晴信

問 17. 下線部㉔に関連して、以下の城郭の天守は、現存天守のうちの1つでかつ城郭は国宝かつ世界遺産にも指定されている。この城郭がある場所を、後の①～④のうちから一つ選べ。 17



問 18. 下線部㉔に関連して、以下は、千利休が修築事業を引き継いだ山門である。寺院側が利休に報いるために山門に雪駄を履いた利休の木像を設置したが、この像が豊臣秀吉の逆鱗に触れたとも言われる。この山門を持つ寺院を、後の①～④のうちから一つ選べ。 18

第4回 近世史①



- ① 延暦寺
- ② 建仁寺
- ③ 妙心寺
- ④ 大徳寺

第4問 高校生のリツさんは、近世のキリスト教政策と対外政策に興味を持ち、先生の助言を受けて、年譜や抜粋文にまとめて整理してみた。これらを読んで、後の問い（問19～24）に答えよ。（配点 25）

年譜

年次	キリスト教政策	対外政策
1587	㊤バテレン追放令	
1596		ア号事件
1612	幕領に禁教令	
1613		㊦慶長遣欧使節
	全国に禁教令を拡充	
1614	イを国外追放	
1616		幕府が中国船を除く外国船の寄港地を平戸と長崎に限定
1622	元和大殉教	

年次	キリスト教政策	対外政策
1623		イギリスが対日貿易から自主撤退
1624		幕府がスペイン船の来航禁止
1633	第一次鎖国令（寛永十年令）	
1634	第二次鎖国令（寛永十一年令）	
1635	第三次鎖国令（寛永十二年令）	
1636	第四次鎖国令（寛永十三年令）	
1639	第五次鎖国令（寛永十六年令）	
1640	幕府が宗門改役を設置	
1641		オランダ商館を出島に離隔

#### 抜粋文

I これら西欧諸国との貿易は、日本の銀と明の生糸・絹織物の中継貿易であることにその本質を持っていた。(中略) 豊臣秀吉の「唐入り」も、大きな目的の一つは、「勘合<sup>かんごう</sup>の事」、つまり両国間の貿易であった。徳川家康は、政権を握ると、◎慶長十二年に講和の成立した朝鮮や同十四年に服属させた琉球を介して意識的に明と国交を開こうとする。

II 一揆勢は文字通り皆殺しで、主な戦闘が終わった後に、女や子供にいたる生き残った無抵抗な者の殺戮<sup>きつりく</sup>が行われた。この時は、単なる手柄稼ぎの首取りの目標となる者が多かった。◎諸手より集まった首数は一万九〇〇〇余に及ぶという。

(I・II ● 『家光は、なぜ「鎖国」をしたのか』河出文庫／山本博文)

## 第4回 近世史①

問 19. 空欄 **ア**・**イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。 **19**

- ① ア リーフデ                      イ 高山右近
- ② ア リーフデ                      イ 小西行長
- ③ ア サンフェリペ                イ 高山右近
- ④ ア サンフェリペ                イ 小西行長

問 20. 第一次鎖国令に該当するものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

**20**

- ① 伴天連同宗旨の者かくれ居所え、<sup>かのくに</sup>彼国よりつけ届物送りあたふる事。  
右茲<sup>こゝ</sup>に因りて、自今以後、かれうた渡海の儀停止せられおわんぬ。
- ② 南蛮人子孫残し置かず、<sup>つまびらか</sup>詳ニ堅く申し付くべき事。若し違背せ  
しめ、残し置く<sup>やから</sup>族これ有るニおいてハ、其者ハ死罪、一類の者ハ科<sup>とが</sup>の  
<sup>けいちよう</sup>軽重ニより申し付くべき事。
- ③ 異国え日本の船これを遣<sup>つかわ</sup>すの儀、堅く停止<sup>かた</sup>の事。
- ④ 異国え奉書船の外、舟遣<sup>つかわ</sup>し候儀、堅く停止<sup>かた</sup>の事。

問 21. 下線部②に関連して、以下の史料について述べた文として誤っているものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 **21**

[史料]

定

一、日本ハ<sup>しんこく</sup>神国たる<sup>ところ</sup>処、きりしたん国より<sup>じゃほう</sup>邪法(注1)を授け候儀、<sup>き</sup>太<sup>はなはだ</sup>以<sup>も</sup>って<sup>しか</sup>然るべからず候事。(注2)

一、其<sup>その</sup>国郡の者を<sup>ちかづけ</sup>近付、<sup>もんと</sup>門徒(注3)になし、<sup>じんじゃぶつかく</sup>神社仏閣を<sup>うちやぶる</sup>打破の由<sup>よし</sup>前代未<sup>だいま</sup>聞<sup>もん</sup>候。国郡在<sup>ざいしょ</sup>所(注4)知行等<sup>きゆうにん</sup>給人(注5)に下され候儀は、<sup>とうざ</sup>当座の事(注6)候、天下(注7)よりの<sup>ごはつと</sup>御法度を<sup>あいまもり</sup>相守、<sup>しよじ</sup>諸事其意を得べき<sup>しもじも</sup>処、下々

として猥<sup>みだりの</sup>義<sup>くせごと</sup>曲事事。

一、伴天連<sup>ばてれん</sup>其智恵<sup>もって</sup>の法<sup>しだい</sup>（注8）を以、心ざし次第<sup>だんな</sup>に檀那<sup>もちそうろう</sup>（注9）を持候<sup>もちそうろう</sup>と思し召され候へば、右の如く日域<sup>にちいき</sup>（注10）の仏法<sup>あいやぶる</sup>を相破事<sup>あいやぶる</sup>、曲事候条<sup>あいやぶる</sup>、伴天連儀<sup>ばてれん</sup>日本の地<sup>まじく</sup>にはおかせられ間敷候間<sup>まじく</sup>、今日より廿日の間に用意<sup>まじく</sup>仕<sup>つかまつり</sup>帰国<sup>しもじもばてれん</sup>すべく候。其中<sup>い</sup>に下々<sup>い</sup>伴天連<sup>い</sup>に謂<sup>もうしかくる</sup>はれざる儀<sup>もうしかくる</sup>申懸<sup>もうしかくる</sup>ものこれ在らば曲事<sup>くせごと</sup>たるべき事。

一、黒船<sup>くろふね</sup>（注11）の儀<sup>儀</sup>は商売<sup>かくべつに</sup>の事に候間<sup>かくべつに</sup>、各別<sup>かくべつに</sup>（注12）候の条<sup>条</sup>、年月<sup>年月</sup>を経<sup>へ</sup>、諸事<sup>諸事</sup>売買<sup>売買</sup>いたすべき事。

一、自今<sup>じこん</sup>以後<sup>以後</sup>仏法<sup>仏法</sup>のさまたげ<sup>さまたげ</sup>を成さざる輩<sup>ともがら</sup>は、商人<sup>商人</sup>の儀<sup>儀</sup>は申すに及ばず、いづれにてもきりしたん国<sup>おうかん</sup>より往還<sup>おうかん</sup>くるしからず候条<sup>候条</sup>、其意<sup>其意</sup>を成すべき事。  
已上<sup>いじょう</sup>

天正十五年六月十九日

（『松浦家文書』）

（注1）邪法：邪悪な考え

（注2）然るべからず候事：けしからんこと

（注3）門徒：信者

（注4）在所：ここでは村のこと

（注5）給人：主君から知行をもらっている者

（注6）当座の事：しばらくの間のこと （注7）天下：豊臣秀吉

（注8）其智恵の法：色々な知識。バテレンが色々な知識を持つこと

（注9）檀那：檀家

（注10）日域：日本

（注11）黒船：ポルトガル船

（注12）各別：特別

- ① 史料によれば、バテレンが入信させた大名に領民に神社仏閣を破却させているとある。
- ② 史料によれば、豊臣秀吉から知行を下賜されている給人は、豊臣秀吉のご法度を守りさえすれば、キリシタンとなってもよいとある。
- ③ 史料によれば、バテレンは、20日の間に日本国から追放するとある。
- ④ 史料によれば、きりしたん国からの商人は、日本に来てよいとある。

第4回 近世史①

問 22. 下線部㉔に関連して、この使節団の代表と、使節を派遣した大名との最も適当なものの組合せを、次の①～④のうちから一つ選べ。 22

a 支倉常長    b 田中勝介    c 前田利家    d 伊達政宗

① a・c    ② a・d    ③ b・c    ④ b・d

問 23. 下線部㉕に関連して、江戸時代における朝鮮や琉球との関係に関して述べた次の文 a～d について、最も適当なものの組合せを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- a 朝鮮通信使は、毎回対馬まで来て対馬藩主に謁見した後、帰国した。
- b 新井白石は、朝鮮通信使の待遇を簡素化した。
- c 琉球王国は、将軍の代替わりごとに謝恩使を派遣した。
- d 琉球からの使節が江戸に参府する際は琉球の民族衣装を着ていた。

① a・c    ② a・d    ③ b・c    ④ b・d

問 24. 下線部㉖に関連して、以下は旧原城総攻撃両日の死傷者数をあらわした表である。表中 ア～ウに入る語句の組合せとして正しいものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 24

大名	領地	負傷	討死	合計
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span> 忠利	肥後熊本	1,826	274	2,100
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span> 忠之	筑前福岡	1,658	213	1,871
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ウ</span> 勝茂	肥前佐賀	683	116	799
有馬豊氏	肥前久留米	185	78	263
立花忠茂	筑後柳川	392	127	519
寺沢堅高	肥前唐津	315	23	338
松倉勝家	肥前島原	99	21	120

出典：『家光は、なぜ「鎖国」をしたのか』河出文庫／山本博文

- |   |   |    |   |    |   |    |
|---|---|----|---|----|---|----|
| ① | ア | 黒田 | イ | 細川 | ウ | 鍋島 |
| ② | ア | 黒田 | イ | 鍋島 | ウ | 細川 |
| ③ | ア | 細川 | イ | 鍋島 | ウ | 黒田 |
| ④ | ア | 細川 | イ | 黒田 | ウ | 鍋島 |
| ⑤ | ア | 鍋島 | イ | 黒田 | ウ | 細川 |
| ⑥ | ア | 鍋島 | イ | 細川 | ウ | 黒田 |

\*問題はここまです。次ページから解答解説となりますので開けないでください。





長州藩の御所警備の任を解いたクーデター。

11 b そもそも長州藩関係者は、禁門の変以来の逆賊の汚名が晴れていないので入京できなかった。d 小御所会議で決まったのは徳川慶喜の辞官納地。

12 やや難。②西郷隆盛は、武力討幕派。③薩長連合の時に大政奉還の話は出ていない。④島津久光は、この時そんな情報をもっていない。

13 ア 狩野探幽伊与謝蕪村ウ土佐光起。I (風神雷神図屏風・俵屋宗達) II (宮廷の絵所預・土佐光起)。III (女性問題・尾形光琳) IV (池大雅と並び文人画を大成・与謝蕪村) V (写真・円山応挙) VI (浮世絵のパイオニア・菱川師宣) VII (足利将軍家・織田信長・豊臣秀吉・狩野永徳) VIII (93回引越し・葛飾北斎) IX (狩野派を脅かす・長谷川等伯) X (狩野派を率いて・狩野探幽)。

14 ④iiは、長谷川等伯の「松林図」。

15 やや難。感性を試す問題か。

16 絵画は「鷹見泉石像」。1837年に渡辺崋山が蘭学者で53歳の泉石を描いた。

17 写真から姫路城の特徴の連立式天守が見て取れる。

18 豊臣秀吉が千利休を自殺させた理由の1つに、大徳寺の山門に雪駄姿の利休木像を置かせたというものがあるが、真偽は不明。

19 ア リーフデ号は、17世紀に入ってから。イ 小西行長は、関ヶ原の戦いに敗れて刑死。

20 1630年の第一次鎖国令は、奉書船以外の海外渡航禁止。

21 ②そんなことは書かれていない。大名などの給人は、入信許可制であり、高山右近は棄教を拒否して改易となった。

22 慶長遣欧使節は、伊達政宗が家臣支倉常長を派遣したもの。

23 a 1811年の第12回の最終回だけは、易地聘礼(対馬まで来て帰国)であった。

24 ア 肥後領主加藤氏は既に改易され、小倉藩から細川氏が転封されていた。イ 酒はのめのめ…黒田節だから、福岡藩主は黒田氏。ウ 佐賀藩主が鍋島氏であることは知っている。

第4回 近世史①

【第4回 近世史①解答】

灰色ベタ設問は5点。あとは4点。

1	①	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧
2	①		③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
3		②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
4	①	②		④	⑤	⑥	⑦	⑧
5	①	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧
6	①	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧
7	①	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧
8	①	②	③	④		⑥	⑦	⑧
9		②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
10		②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
11		②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
12		②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
13	①	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧
14	①	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧
15	①		③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
16	①		③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
17	①	②		④	⑤	⑥	⑦	⑧
18	①	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧
19	①	②		④	⑤	⑥	⑦	⑧
20	①	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧
21	①		③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
22	①		③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
23	①	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧
24	①	②	③		⑤	⑥	⑦	⑧



## 第4回 近世史①

### 【第4回 近世史解答用紙】

灰色ベタ設問は5点。あとは4点。

1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
3	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
4	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
5	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
6	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
7	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
8	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
9	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
10	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
11	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
12	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
13	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
14	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
15	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
16	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
17	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
18	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
19	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
20	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
21	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
22	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
23	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
24	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧

氏名 \_\_\_\_\_ 学校【

得点